

校長先生の話

MOISの校訓 3つのG

その3 **again**

3つのG

Grit (グリット) = やり抜く力

Growth (グロウス) = 成長し続ける力

Global (グローバル) = 世界に視野を広げる力

Global・・・ひとつの例として

グレタ・トゥンベリさんを知っていますか？

2019年9月にニューヨークの国連本部で開催された「気候行動サミット」に出席し、各国の首脳らを前に怒りで声を震わせながら、地球温暖化対策を訴える演説をしたスウェーデンの環境活動家です。（当時16歳）

率直な主張と辛辣な表現によって、世界中で賛否が分かれたグレタさんの演説でしたが、世界規模の環境問題に一石を投じた子どもは、彼女が初めてというわけではありません。



Global・・・ひとつの例として

グレタさんからさかのぼること27年前の1992年6月、ブラジルの首都リオデジャネイロで、国連環境開発会議（地球サミット：UNCED）が、世界各国の政府代表らの参加のもと開催されました。

その会議に、子どもの環境団体（ECO : the Environmental Children's Organization）の代表として参加した日系カナダ人セヴァン・カリス＝スズキさんは、子どもの視点から世界の環境問題について、後に「伝説」と言われることとなった演説を行い、満場の喝采を博しました。

当時セヴァンさんは**12歳**でした。

Global・・・セヴァン・スズキのスピーチ

<https://www.youtube.com/watch?v=1SZD6pGXsaM>

セヴァンさんが代表した「子どもの環境団体 = ECO」は、彼女が9歳の時に4人のクラスメートたちと作ったものだそうです。

その後、セヴァンさんはアメリカのイエール大学に進学して理学を学び、やがてカナダのビクトリア大学で環境科学の大学院に進みました。

現在41歳になったセヴァンさんは、その後も精力的に環境問題に関する活動を続けています。

Global・・・セヴァン・スズキのスピーチを聞いて

あなたは何を感じ、何を考えましたか？

あなた自身は、自分たちの未来をどうしたいと思いますか？

セヴァンさんの思い描く未来が、唯一の答えなののでしょうか？

理想と現実が一致しないのは、どうしてなののでしょうか？

よりよい世界とは、どのような世界なののでしょうか？

よりよい世界とは、どうすれば実現できるのでしょうか？

そのために私たちは、何をすべきなののでしょうか？

そのためにあなたには、何ができるのでしょうか？

再び・・・3つのG

Grit「最後までやり抜く力」を身に付け、
Growth「生涯に渡って学び、成長し続ける」ことで、
Global「国際的な視野を持って、
よりよい世界を築くことに貢献する」人になっていこう！

今の自分にできることは何なのか、
自分の頭で考えて、覚悟して、勇気を持って実行を！

今日お話しするのは、「MOIS の校訓」である「3つのG」について、「その3」です。「Again」の理由はこれまでと同じく、3年生は2年前に見て聞いているからです。

5月と6月の朝礼では、本校の校訓である「3つのG」のうち、Grit「やり抜く力」とGrowth「成長し続ける力」についてお話ししました。3回目の今日は、Global「世界に視野を広げる力」について、そのMindset「考え方、心構え」について、その一つの例を紹介してお話しします。

グレタ・トゥンベリさんを知っていますか？ 2019年9月にニューヨークの国連本部で開催された「気候行動サミット」に出席し、各国の首脳らを前に怒りで声を震わせながら、地球温暖化対策を訴える演説をしたスウェーデンの環境活動家です。（当時16歳）率直な主張と辛辣な表現によって、世界中で賛否が分かれたグレタさんの演説でしたが、世界規模の環境問題に一石を投じた子どもは、彼女が初めてというわけではありません。

グレタさんからさかのぼること27年前の1992年6月、ブラジルの首都リオデジャネイロで、国連環境開発会議＝地球サミットが、世界各国の政府代表らの参加のもと開催されました。その会議に、子どもの環境団体ECO（エコ）の代表として参加した日系カナダ人セヴァン・カリス＝スズキさんは、子どもの視点から世界の環境問題について、後に「伝説」と言われることとなった演説を行い、満場の喝采を博しました。当時セヴァンさんは12歳でした。

<セヴァンさんのスピーチ日本語訳>

お話しさせていただくこと、とても光栄です。こんなことを言うのを許していただきたいのですが、グローバル・フォーラムを聞いていて、物足りなく感じました。私たち子どもは、自然との親密な関係を失っていません。おたまじゃくしや花や昆虫たちを愛しています。そして、人間が自然の一部であるということが良く分かっています。

「価値の転換はどうすればいいか」と一生懸命に話をしている大人の人たちを見ていると、複雑なことを考え過ぎて、簡単なことを忘れてしまっているように思うのです。価値の転換の秘密は、子どもの頃を思い出すことです。自然の中で遊んだこと、それがどんなに好きだったか、それがどれほど大切だったか、大人が何でも解決してくれると信じていたこと、何が正しく何が間違っていたかを思い出してください。本当に大切なことは、純白で偽りのないことです。

あなた方の中の子どもの心は、一番大切な価値や本質を知っています。それなのに、あなた方の興味は、出世やお金もうけのことばかりです。あなた方が、「子どものとき自然はいつも側にあった」という思い出を持つ、最後の世代になってしまうのではないでしょう

か。すでに、都会のこどもたちは、自然に触れ合う体験がありません。

私は、21世紀に21歳になります。あなた方の残した地球で生きることになるのです。私たちが生きることのできる地球を残すためには、大きな変革を急いで実行する必要があります。本当にそれをしてもらえるでしょうか。もし、あなた方がやらなければ、いったい誰がするのでしょうか。

もうこれ以上、私たちの地球を破壊することを正当化することはできません。ソマリアやバングラデッシュでは、こどもたちが飢えに苦しんでいます。でも、豊かな国の政府は、分け与えることをしたくないようです。私には、貧困や公害を無くすことのできるお金が、破壊や殺人の為に使われていることが不思議でなりません。

私は、こども環境機構（ECHO）で自然の保護活動をしていますが、いつも「経済が第一だ」という論争に巻き込まれます。でもきれいな空気、水、土がなければどうやって生きていけるというのでしょうか。あなた方はどうしてそれがわからないのですか。

友達の両親はたばこを吸います。そして「大人になってもたばこを吸ってはダメよ」と言います。でも、きっとその子はたばこを吸うようになると思います。大人はこどもの見本なのです。大人はよく言います。「こどもは大人の希望、こどもは未来を救うでしょう」と。でも、それは言い訳です。こどもにとってはあなた方がモデルなのに、こどもがあなた方と違う行動をとれるのでしょうか。いつも言っているではないですか。「けんかをしてはいけない、生き物を傷つけてはいけない、分け合いなさい、欲張ってはいけない」と。でもあなた方はどうして、いけないことばかりしているのですか。

私の両親は環境保護の活動をしています。私は、それを誇りに思います。将来を失うということはとても恐ろしいことです。お金が無くなったり、株が下がったりすることとは比較になりません。私は、たくさんの動物、鳥や昆虫を見ることができましたが、果たして私のこどもはそれらを見ることができのでしょうか。あなた方はこどものとき、こんな恐ろしい心配をしたことがありましたか。すべてはあなた方の時代から始まっているのです。それなのに、「まだ大丈夫、まだ時間がある」ように振る舞っています。

でも、オゾンホール修復の仕方を知っていますか。死んでしまった川に鮭を呼び戻せますか。絶滅した動物たちを生き返らせられますか。砂漠になってしまった森を元に戻せますか。それができないのならせめて、もうこれ以上、壊すのはやめてください。

ブラジル地球サミットの時、リオで道にすんでいるこども（ストリートチルドレン）を見て、ショックを受けました。その一人が私に、「もし僕が金持ちだったら、みんなに食べ物や服や小屋をあげるのに・・・」と言いました。必要なものをすべて持っているあな

た方が、なぜもっと欲しがるのでしょうか。

このグローバル・フォーラムで聞いたことは、去年リオでも聞きましたが、私には混乱がさらにひどくなるように思えます。会議で決めたことが実行されるのはいつのことでしょう。本当に心配でたまりません。あなた方は私たちのモデルです。私たちはあなた方のようになろうとしているのです。どうかお手本を見せてください。勇気を失わないで下さい。「他の子の言うことなど気にしないで。人の真似をするんじゃありません」と言うではありませんか。どうして変化を怖れるのですか。

最後に、世界中のこどもたち、未来の人たち、動物、植物を代表して尋ねます。あなた方は何を遺産として私たちに残してくれるのですか？あなた方はいったい何を待っているのですか？

ありがとうございました。

<セヴァンさんのスピーチ ここまで>

セヴァンさんが代表した「子どもの環境団体=ECO」は、彼女が9歳の時に4人のクラスメートたちと作ったものだそうです。その後、セヴァンさんはアメリカのイエール大学に進学して理学を学び、やがてカナダのビクトリア大学で環境科学の大学院に進みました。現在41歳になったセヴァンさんは、その後も精力的に環境問題に関する活動を続けています。

セヴァン・スズキさんのスピーチを聞いて、あなたは何を感じ、何を考えましたか？

あなた自身は、自分たちの未来をどうしたいと思いますか？

セヴァンさんの思い描く未来が、唯一の答えなののでしょうか？

理想と現実が一致しないのは、どうしてなのでしょう？

よりよい世界とは、どのような世界なのでしょう？

よりよい世界とは、どうすれば実現できるのでしょうか？

そのために私たちは、何をすべきなのでしょう？

そのためにあなたには、何ができるのでしょうか？

本校の校訓である「3つのG」は、すなわち Grit「最後までやり抜く力」を身に付け、Growth「生涯に渡って学び、成長し続ける」ことで、Global「国際的な視野を持って、より良い世界を築くことに貢献する」人になっていこう！ということです。そのために今の皆さんに出来ることは何か、今の自分にできることは何なのか、自分の頭で考えて、覚悟して、勇気を持って実行していきましょう。